

古墳時代の

おおきど

さいたま市

さしおうぎ

西区指扇

大木戸遺跡

第17次調査

公益財団法人埼玉県埋蔵文化財調査事業団では、大宮西部特定土地区画整理事業に先立ち、大木戸遺跡の発掘調査をしています。

大木戸遺跡の調査は今回で17回目になります。今回の調査地点は滝沼川の低地に面した台地上にあり、古墳時代初め(約1,700年前)の竪穴住居跡がたくさん発見されました。周辺では同時代の竪穴住居跡や方形周溝墓が見つかっていて、当時のムラの様子が明らかになってきました。他に、縄文時代後期や近世の遺構なども発見されています。



慎重に土を取り除くと土器が姿を現します



土器をていねいに取り上げます



発掘調査の様子

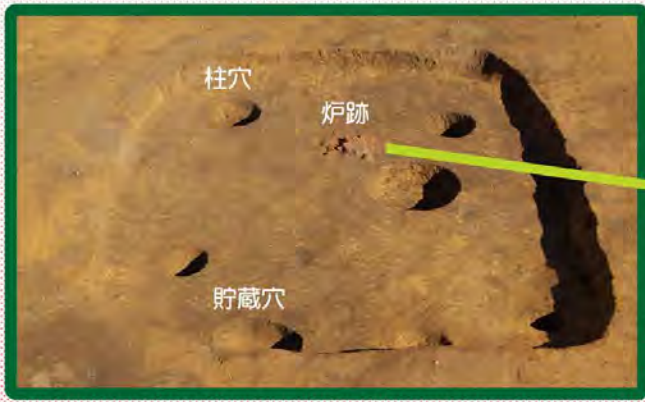


主催 公益財団法人埼玉県埋蔵文化財調査事業団

共催 埼玉県教育委員会 後援 さいたま市教育委員会

竪穴住居跡

古墳時代の竪穴住居跡は、8軒発見されました。床面には柱の穴と貯蔵穴が掘り込まれています。赤く見えるのは炉の跡です。



この時代の住居跡は方形で、中央部付近に炉を設けるのが一般的です。住居跡の炉跡には粘土が敷いてありました。表面は焼けてガチガチに硬くなっています。このような炉跡は『粘土板炉』または『火皿』と呼ばれています。

この住居跡の壁際からは、たくさんの土器が見つかりました。また、壁に立てかけるように、小型の壺が出土しています。

黒く見えるのは炭化した木材です。



大木戸遺跡概略図



0 10m 1:200

凡例

- 縄文時代
- 古墳時代
- 近世

